

薪・ペレットの利用をさらに広げよう！

今世界は、アメリカ、イスラエルによるイラン攻撃以降の中東情勢の悪化による原油供給の不安定化や価格高騰が問題となっている。特に日本は中東地域の産油国からの原油に大きく依存しており、国際情勢の変化によってエネルギー供給が不安定化するという大きな課題



を抱えている。

地球温暖化やエネルギー問題への関心が高まる中、丹波篠山市では、間伐材などを活用した木質ペレットの取り組みが進められており、薪とともに地域資源を生かした持続可能なエネルギーとして注目されている。

薪や木質ペレットなど木質バイオマスエネルギーは森林資源を有効活用できる点が大きな利点である。丹波篠山には多くの森林が存在し、間伐材や未利用木材が豊富にある。これらを燃料として利用することで、資源の無駄を減らすだけでなく、森林整備の促進にもつながり、土砂災害の防止や生態系の維持にもつながる。

次に、環境への負担が小さい点が挙げられる。薪やペレットは、燃焼時に二酸化炭素を排出するものの、木が成長する過程で光合成により同量の二酸化炭素を吸収しているため、全体として大気中の二酸化炭素を増やさない「カーボンニュートラル」の性質を持つ。このため、地球温暖化の抑制に貢献するエネルギーといえる。

さらに、地域内でエネルギーを循環させる「地産地消」が可能である点も重要である。丹波篠山で生産された木材から作られた薪やペレットを地域内で利用することで、輸送コストを削減し、エネルギーの自給率向上につながる。これは、海外からのエネルギー輸入に依存する日本にとって、国際情勢の影響を受けにくい安定したエネルギー確保という点でも重要である。また、林業や加工業などに新たな雇用を生み、地域経済の活性化にも寄与する。

今後、薪ストーブ、ペレットストーブや薪ボイラー、ペレットボイラーなどをもっと多くの市民に利用してもらえよう、いろいろな機会をとらえて訴えていきたい。

